

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 高山市立清見中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒506-0102

岐阜県高山市清見町三日町477番地1

E-mail kiyomichu@edu.city.takayama.gifu.jp

Website http://www.city.takayama.gifu.jp/ga/kiyomi-j/index.htm

幼児児童生徒数 男子 37 名 女子 27 名 合計 64 名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

当校は、清見町まちづくり協議会・清見保育園・清見小学校と協働し、「地域・家庭・学校がひとつになって『真に強い子』を育てる わがふるさと清見」を活動テーマとして、E S Dを人権教育の充実と捉え、E S Dの実践を通して「自他の良さを認め合い、誰に対してもやさしくできる清見の子」の育成を目標とした。

具体的には、清見小学校と協働した学習部会・仲間部会、さらに地域と連携した地域部会の活動を柱に、①教科や道徳の時間における人権教育の推進、②特別活動における人権教育の推進、③地域社会における人権教育の推進 に取り組んでいる。

① 教科や道徳の時間における人権教育

教科指導では、「認識力」「自己啓発力」「行動力」のつきたい3つの力について、本時にはどのような学習活動を通してどの力を身けるのかを明確にした授業を行っている。また、17の人権課題についての認識を深めるために、教科授業の中での的確に取り上げるようにしている。

道徳の指導では、「モラルジレンマ」の手法を積極的に取り入れ、生徒が根拠を明らかにして考え、持った考えをきちんと仲間に伝える力をつける指導を行っている。

② 特別活動における人権教育

清見中学校には、今年制定20年を迎えた「生徒会人権宣言」を掲げている。この人権宣言を核として、生徒がお互いの人権を尊重し、お互いが気持ちよく生活できる学校づくりに取り組んでいる。

また、特別活動や総合的な学習の時間において、様々な人権課題についての学習を行っている。全校では、6月に車いすバスケットボールのチームを招いての交流会を行った。1年生は5月に聴覚障がいをお持ちの方の話を聴く会を持ち、3月には福祉施設を訪問し、入所者との交流も行った。

③ 地域社会における人権教育

地域の方が中心となって、「地域の大人の人権意識を啓発する活動」「地域の大人が子どもの安心安全を守る活動」に取り組んでいる。啓発活動では地域の大人を対象に「人権講演会」を実施した。また、小中学校の人権教育の取組を紹介するなどした「人権だより」を発行した。安心安全活動では、スクール・ターによる児童生徒の登校の見守りや清見っ子安全サポーターによる下校の見届けを行っている。また、各地区で作成した通学路危険箇所マップを生かして親子での危険箇所確認を行い、児童生徒に安全に登下校する意識を育てている。

※チェック事項1-1、2-1に対応



① モラルジレンマ手法の道徳



②-1 車いすバスケ人権教室



②-2 大人も参加する児童生徒集会



③ 地域の大人対象の人権講演会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|--|--|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|--|
| |
|--|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

人権教育を本校の教育の中核と位置付け、学校教育全体を通して推進する。主に以下のような教育活動に取り組む。

「教科」…人権課題についての認識を深め、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

「道徳」…「モラルジレンマ手法の道徳」を通して、考えを持ち切ること、伝え切ること、仲間の多様な勸化を受け入れる力の育成を図る。

「総合的な学習の時間」…様々な人権課題について体験的な学習を通して認識力・自己啓発力・行動力を総合的に育成する。

「特別活動」…生徒の自治的な活動を核として、学校生活の中でお互いの人権を尊重する言動ができるようにする。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

地域ぐるみで人権教育に取り組むために、地域にその中核となる「人権教育推進委員会」を設置している。

実際の推進組織として、以下の3つの部会を設置している。

- ①「学習部会」清見小・清見中の職員で構成する。教科指導、道徳指導を中心に小中で連携して児童・生徒の育成に当たる。
- ②「仲間部会」清見小・清見中の職員で構成する。児童会・生徒会の活動を中心として、主に児童・生徒の望ましい仲間関係の醸成に取り組む。
- ③「地域部会」地域住民、清見小・清見中の教員、保護者の3者の代表で構成する。地域の大人の人権意識の啓発や地域における児童・生徒の安全見守りを行う。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

〔方法〕①生徒・保護者による評価はアンケート形式で実施。学習や生活に関わるアンケートに人権教育に関わった項目を加えている。②地域住民を中心とした「学校評議員会」において意見交換の機会を設け、評価を求めている。③公表会において授業や児童生徒集会を公開し、参観者に自由記述で評価を求めている。

〔成果と課題〕○生徒が自分の考えを持ち、伝える力はついてきている。

●一人でも進んであいさつをしたり行動したりという強さが弱い。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

〔発信の方法・内容〕①「人権教育公表会」において、市内外の学校関係者に実践の発表と生徒の姿を公開。②「小中合同運動会」「地域と合同の文化祭」において、広く地域住民に生徒の姿を公開。③「学校だより」、地域部会発行「人権だより」を校区全戸に配布し、学校の取組を紹介。

〔得られた効果〕本校が人権教育に取り組んでいることが広く周知された。また、本校の取組を出発点として、地域の「人権宣言」策定に向けた動きが始まっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

「清見町まちづくり協議会」と連携し、地域の文化祭を本校の文化祭と合同した「清見町文化祭」を実施。また、「清見町夏まつり」に生徒が盆踊りの演奏を行うとともに、小中合同の「清見せせらぎ運動会」において参観者と共に盆踊りを実施。

「清見町イベント推進会議」と協働し、数千人が来場する地域の「紅葉まつり」に生徒が「お茶会の開催」「赤い羽根共同募金」「祭り会場のゴミ清掃」「こどもまつり運営」のボランティアとして参画。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

[清見町人権教育推進委員会]

- 「清見町人権宣言」の策定、公表
- ・「人権教育公表会」を開催し、広く県内に実践を公表

[学習部会]

- ・17の人権課題の一つ一つについて知り、考え、行動する力の育成
- ・「考えを持ち切る」「思いを伝え切る」生徒の育成
- ・

[仲間部会]

- ・地域の小学生・中学生・大人と一緒に思いを伝え合う集会の開催
- ・

[地域部会]

- ・人権意識を啓発する看板の設置
- ・「清見町人権だより」の定期発行
- ・「大人のための人権講演会」の開催
- ・